

介護労働者の意思決定に関する考察

- 法人形態と選好の異質性 -

加藤善昌*

要旨

本稿は、介護労働者の意思決定における法人形態ごとの異質性について実証分析を行った。介護産業における賃金水準の低さと離職率の高さは広く知られているが、二者の関係についての見解は先行研究によってさまざまである。そこで本稿は、労働者間で労働に対する選好に異質性が存在すると仮定し、さらに、その結果として労働者が所属する企業の法人形態も異なると仮定したうえで、介護労働者の意思を対象として回帰分析した。

対象とした介護労働者の意思は、職業生活全体に対する満足度と、今の職場にいつまで勤めたいかという就業継続意向である。そして、主な説明変数として、他産業との賃金格差を示す相対賃金と、職務に対する自発的意欲を示す内発的動機、職場内での業務上のコミュニケーションの深度を示す企業内ソーシャル・キャピタルを設定した。なお、所属する企業の形態にそって営利企業と非営利組織、公共団体という3種類のサブサンプルを編成した。

推定の結果、相対賃金は満足度に対しては有意に相関するが、就業継続意向に対しては有意に相関しないことが判明した。また、内発的動機は全サンプルにおいて満足度と就業継続意向の双方で有意性を持つが、企業内ソーシャル・キャピタルは公共団体の就業継続意向には有意に相関しないことも判明した。

JEL classification: I11, I31, J28

キーワード：介護労働者の意思，法人形態・選好の異質性，相対賃金

* 神戸大学大学院経済学研究科 113e102e@stu.kobe-u.ac.jp